

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

2. 癌 (癌の術後、抗癌剤の不特定な副作用)

文献

長谷川幸清, 水谷靖司, 倉本博行, ほか. Paclitaxel 投与時の筋肉痛・関節痛に対する芍薬甘草湯、L-Glutamine の効果. 癌と化学療法 2002; 29: 569-74. 医中誌 Web ID: 2002217069
[MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

Paclitaxel 投与時の筋肉痛・関節痛に対する芍薬甘草湯、L-Glutamine の有効性と安全性の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (cross over) (RCT- cross over)

3. セッティング

岡山大学医学部産婦人科

4. 参加者

1999 年 12 月から 2000 年 7 月の間で Paclitaxel (TXL) を含む化学療法を受けた患者で、grade 2 以上の筋肉痛・関節痛が出現しその後 2 コース以上の投与が予定されている卵巣癌 13 名、子宮頸癌 1 名、外陰癌 1 名の 15 名。解析例 12 名

5. 介入

Arm 1: 第 2 コースで芍薬甘草湯 7.5g /日 分 3、第 3 コースは L-Glutamine 2.0g /日 分 3 を TXL に併用投与 7 名

Arm 2: 第 2 コースで L-Glutamine 2.0g /日 分 3、第 3 コースは芍薬甘草湯 7.5g /日 分 3 を TXL に併用投与 8 名

疼痛が出現した第 1 コース (TXL 単独投与) を対照。

各薬剤は TXL 投与 1 週間前より服用させ、疼痛消失時まで継続した。

効果が乏しい例では NSAIDs (ボルタレン: 25mg) を頓用。Washout 期間は 1 週間以上。

6. 主なアウトカム評価項目

効果判定は、1) pain score の合計 2) 筋肉痛・関節痛の持続日数 3) grade 2 以上の持続日数 4) 鎮痛薬の使用回数 5) 最終的な主観的印象 で行った。

7. 主な結果

最終的に評価対象は 12 名であった。筋肉痛・関節痛の持続日数の短縮がコントロール群と L-Glutamine 投与群間に有意差を認めた。grade 2 以上の筋肉痛・関節痛持続期間の短縮がコントロール群と芍薬甘草湯投与群およびコントロール群と L-Glutamine 投与群間に有意差を認めた。芍薬甘草湯投与群と L-Glutamine 投与群間にはすべての点で有意差がなかった。

8. 結論

芍薬甘草湯および L-Glutamine は Paclitaxel 投与時の筋肉痛・関節痛に対して劇的な効果は示さないが grade 2 の疼痛の持続期間の短縮が認められる。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

L-Glutamine 投与群で嘔気が 1 名、芍薬甘草湯投与群で原因は記載されていないが内服できない 1 名があった。

11. Abstractor のコメント

芍薬甘草湯は平滑筋や骨格筋の痙攣に伴う疼痛に有効である。一方、Paclitaxel 投与時の副作用は関節痛である。疼痛の病態、病変部位が芍薬甘草湯の適用と異なるようである。しかし、論文中に著効例の存在が述べられている。症例数を増やすこと及び、有効例と非有効例の解析により適用対象を鑑別診断することで将来有効性を確認できるかもしれない。

12. Abstractor and date

岡部哲郎 2007.6.15, 2008.4.1, 2010.6.1, 2013.12.31